



協 自 自  
調 律 主

次代を担う若人

# 筑 西

久留米市立筑邦西中学校  
学校だより 5-23号  
令和6年3月22日  
文責 校長 古賀 一英

## 修了式において

修了式では、この1年間を振り返って、体育祭や文化発表会などでの生徒たちの頑張りと成長について話をしました。そして、そのような成長を遂げることができた理由については、①目標を明確にできたこと、②計画を立てることができたこと、③計画を実行するときに互いに協力できたことの3点を上げました。また、この3点を支える最も重要なことが「目標を達成したい」や「最後までがんばりたい」等の「やる気」や「意欲」であることを伝えました。大谷選手（ドジャース）がインタビューの中で、「野球をやって伸び悩む選手たちへのメッセージ」として次のように答えています。



小学校、中学校で伸び悩むということは正直ないかなと。それはもう心の持ちようかなというか、必ずうまくなりたいという気持ちがあれば、必ず伸びる時期なので、そう思うメンタリティーの方が、そっちの方が問題かなと思うので、高い目標を持って、こうなりたいと思う選手の目標みたいなものを持っていれば、必ずよくなるんじゃないかなと思っています。

大谷選手が言うように「高い目標を持って、こうなりたいと思う」目標や気持ちがあれば、きっと成長できると考えています。これが、学校目標である「夢への挑戦」にとってとても大切なことであり、生徒たちのこれからの人生、私たちのこれからの人生でも大切なことではないかと思っています。

学校だよりの前号で、卒業生の同窓会入会式での「御菓子処 富松本家」店主 富松豊次様（第12回卒）の講話について紹介をしました。富松様は、和菓子作りについて「誰に教わったわけでもなく、父親が作る姿を見ながら覚えました。」と淡々と話されたのですが、富松様の気持ちの中には、「父のような和菓子職人になりたい」や「父を越えたい」という強い思いがあったのではないかと感じました。

本校では、今年度も「夢への挑戦」をキーワードに、生徒たちに目標を持たせる取り組みや計画を立てる取り組みなどをおして、生徒たちの成長を支えてきたところです。また、特に、様々な活動後に、好成績を収めたことはもちろんですが、そのことで成長できた点について一生懸命に褒めて伸ばすことに努めてきました。来年度についても、学校では、生徒たちの成長をしっかりサポートしていきますので、各ご家庭においても成長への期待や喜びを込めてお子様に言葉かけを行っていただき、「やる気」や「意欲」が継続できるようにご協力をお願いします。

今年1年の保護者の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

## 地域の方からのお礼

学校の近所に住んである方から、「学校近くの生ごみ置き場の場所が変わるため、年配の方々が荷物などを移動させていた時に、中学1年生の2名が自ら気持ちよく手伝ってくれた」と感謝の電話が入りました。作業をされていた方々の笑顔が目には浮かび大変うれしく思います。とても素敵な生徒たちです。

## 令和6年度1学期始業式期日について

久留米市立学校の始業式や終業式等の期日については、久留米市立小中学校等管理規則で設定をされています。その改訂が行われ、令和6年度については、4月8日（月）となりましたことを報告いたします。なお、入学式は4月10日（水）を予定していますことを申し添えます。

## 令和6年度の「リーバー」運用について

本校では、令和5年度よりスマートフォン等から学校に欠席や遅刻の連絡等ができる健康観察アプリ「リーバー」を導入しています。

現在、久留米市内の小中学校では、新しい校務支援システム（教育現場において、データおよびデジタル技術を活用するシステム）の導入が進められており、その新システムには、「リーバー」と同様の連絡機能が導入されることになっています。

つきましては、今後、新システムの運用開始となった際に改めて、登録方法等の説明についてお知らせをすることとしていますので、4月からしばらくの間は「リーバー」を用いた欠席や遅刻等の連絡を継続させていただきます。そのため、新学期になりましたら、リーバーの登録内容を新学年、新学級に変更をお願いすることとなりますのでご理解とご協力をお願いします。改めて、新年度に資料を送付させていただきます。

なお、新1年生の保護者の方もおられることと思いますが、小学校で「リーバー」を利用されていた場合は、中学校等への変更がそのままできますので、アプリ等を削除されないようお願いいたします。

## 第65回卒業式について

暖かな春の日差しに包まれ、3月8日（金）第65回卒業式を実施することができ、136名の卒業生が旅立っていきました。4年ぶりに、岸PTA会長より祝辞を、また保護者を代表して立野様より謝辞をいただきました。心より感謝申し上げます。

私は、本校で校長に就任した3年前に学校教育目標を「夢への挑戦」として、教育活動を進めてきました。生徒たちは、感染症をはじめとする難しい課題に、何度も挫けそうになりながらも一つ一つ前に進んできてくれました。おかげで、入学当時からすると体だけではなく、心も大きく成長をしてくれたと思っています。

校長の式辞では、3つの「夢への挑戦」メッセージとして、1つは、「失敗を恐れずにチャレンジすること」、2つめに「命を大切にすること」、3つめに「感謝の心を持つこと」を送りました。これまで、何度も繰り返してきた言葉ですが、卒業生に忘れずにいてもらいたいと思いながら伝えました。彼らの今後の更なる成長を期待しています。

また、卒業生を代表して藤本茉優さん（3-1）が「答辞」を述べてくれましたので紹介をします。



### 答 辞※一部抜粋

3年間同じ時を過ごし、笑いあい、励ましあった思い出は絶対に忘れません。今まで本当にありがとう。この学年のみんなと出会えたことに感謝します。そして、先生方。中学校生活という私たちの歩みは決して孤独ではありませんでした。苦しんだ時、迷った時、背中をそっと押してくれた手がありました。ゆっくりと話を聞いてくれる存在がありました。それぞれの道へ進めるのは先生方のおかげです。私たちが根気強く支えてくださって、本当にありがとうございました。

最後にいつも近くにくれた家族、つらいときや苦しいとき、寄り添い、いつも通りに接してくれました。そのおかげで、わたしたちは安心して過ごすことができました。本当にありがとうございました。これからも見守ってください。

通い慣れた通学路も、すっかり体に馴染んだ制服も、今日で最後になります。これからの道は楽しいことばかりではなく、大きな壁にぶつかることもあるかもしれません。それでも、この3年間で出会ったすべての人や過ごした時間が私たちに力を、強さを、一歩踏み出す勇気を与えてくれるはずです。

3年間頑張ってきた「夢への挑戦」に向かって、これからも前を向き、それぞれの新しい道へ進んでいきます。これまで支えてくださったすべての方々に感謝し、答辞といたします。

令和6年3月8日 卒業生代表 藤本茉優